

## 熊本地震復興支援ボランティア2日目 (8月24日(水))

2日目の様子です。

朝5時半起床、6時半に宿舎を出発しました。

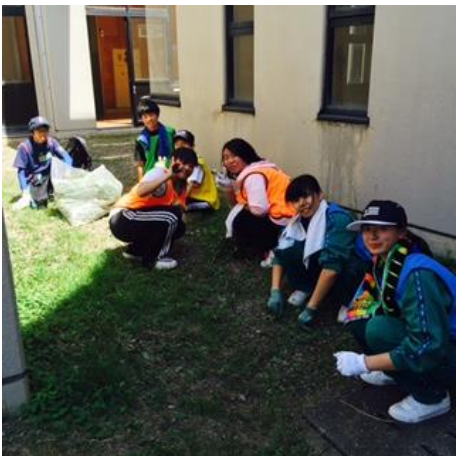
時間通り、広安西小学校に到着し、熊本地震を記録した「涙の向こうに」を視聴しました。



午前は、気温36度の中、皆暑さを忘れて小学校内外の片付け、清掃をしました。

中庭や体育館の裏では、ハンガーや瓶詰の食品、子どもが遊んだボール、腐った泥や様々な虫が住みついた、5・6人で動かすのもやっとな大きなシートなど、約1万人の避難者の方が送られた生活を思わせるようなものを、当時の不憫さを噛みしめながら拾い集めていきました。

作業中は、一昨日から登校している小学生の子どもたちの元気な声が響き渡っていました。



お弁当をしっかりといただいて、午後を迎えました。

昼食後、昼休み中の小学生たちとたくさんふれあい、笑顔と笑い声で体温を超える暑さを忘れさせてくれました。体育館では、定時制の生徒が革細工の動物マスコットを制作・プレゼントしました。子どもたちは興味津々で、大変喜んでもらえました。男の子には恐竜が人気でした。



午後の最後は、井出校長先生による講話を聴かせていただきました。

校長先生をはじめ、命ながら助かった職員や、家族や壊れた家のがれき処理に追われながらも先生方が行った、800人を超える避難者への対応など、様々なお話を聴かせていただきました。また、地震後初めて全員が無事登校した日に、校長先生が児童に向けて言われたお言葉が大変心に残りました。



閉会式では、団長（三木高校校長）をはじめ、三木高校の代表生徒のあいさつで、ボランティアを通してご縁があったこと、ボランティアをさせていただけたことに感謝する気持ちを伝えました。

また、本校も代表生徒が PTA の保護者からあずかった千羽鶴を、1日も早い復興の祈りと思いを込めて贈呈しました。



閉会式後に全員で記念撮影を行いました。佐用小学校から送られた種から育った、満開の向日葵の前で撮りました。



15時30分に小学校を後にし、宿舎へと向かいました。車窓から見える被災地を目の当たりにして、それぞれの思いを胸に向かいました。

広安西小学校の先生方、児童の皆さん、ありがとうございました。

宿舎では、夕食、入浴、ミーティングが行われました。